

# 山形県透析医療の現況・腎不全研究会だより

## 出川紀行

山形県における透析・腎不全研究会を取り巻く状況を報告させていただきます。

### 1 新型コロナウイルス感染症への対応

2020年3月31日 山形県で、新型コロナウイルス感染患者が報告され、透析患者に新型コロナウイルス感染者が出た場合の対策について、県内の透析施設・保健所・県対策室合同で検討を行い、一定の見解が得られた（詳細は日透医誌 2020; 35(3)）。

2022年1月から山形県も第6波に突入し、透析患者の新型コロナウイルス感染者が増加してきた。ここで、以前の取り決め事項であった新型コロナウイルス感染透析患者の原則入院は、基幹病院入院設備の応需能力の問題から不可能となり、軽症者は自宅待機し、個人で通院し、隔離された透析室や透析可能なスペースで透析を受けるようになった。ただし、通院が自力でできない・家族が協力できない患者は、軽症でも入院せざるを得なかった。さらに7月からの第7波新型コロナウイルス感染者の急激な増加により、9月8日時点で、山形県の透析患者の感染数は49人、死亡1人、転帰不明が17人ほどになっている（透析患者における累積の新型コロナウイルス感染者の登録数について——透析医会のデータ）。山形県全体で、累計9万人を超える新型コロナウイルス感染者数を考慮すると、各医療機関が多忙なため、全員の登録がされていない可能性がある。今後、きちんと登録されれば、さらに増加するものと思われる。

透析を行っている医療機関は通常業務に加え、新型コロナウイルス感染対策でスタッフは多忙を極めている。病院によっては、院内クラスターが発生し、他の医療機関からの受け入れを断る事態が出ている。そのため、新型コロナウイルス感染患者だけでなく、それ以外の病気で患者のスムーズな移動も困難になっている。

新型コロナウイルスが現在、第7波で猛威を振るっているが、一刻も早い収束を願うばかりである。

### 2 腎不全研究会に関して

本県の腎不全研究会は、1974年から毎年開催し、2019年には第50回の記念大会、祝賀会も行われた。しかし、2020年と2021年は開催中止とした。残念なことであったが、新型コロナウイルス感染状況をふまえると仕方ないと思われた。2023年1月にWEBでの第51回山形腎不全研究会の開催を予

定している。新型コロナ感染状況下で演題が多数集まるか心配はあるが、多数の応募を期待したい。

### 3 山形県における透析患者動向

山形県内における血液透析・腹膜透析の現状調査から透析患者の動向をみると、透析医療が始まって以来、増加してきた山形県の透析患者が2019年の2,745人をピークに減少に転じている(表1)。山形県では、高齢者人口は増加しているが、総人口の減少が透析患者の減少をもたらしているものと思われる。また、2020年、2021年は、新型コロナ感染状況下で、透析室スタッフが多忙のため、統計調査の人数がきちんと把握されなかった可能性があり、2022年の統計調査結果を交えて判断する必要がある。

表1 山形県における透析患者の推移

	血液透析患者数 (人)	腹膜透析患者数 (人)	新規透析患者数 (人)	死亡数 (人)
2021年	2,600	59	303	304
2020年	2,644	73	310	290
2019年	2,681	64	337	275
2018年	2,633	51	335	266

(山形腎不全研究会アンケート調査より)